

令和 2 年 5 月 12 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02316

研究課題名(和文) ブレイクの複合芸術における「足」 医学的、ジェンダー的研究

研究課題名(英文) Medical and Sexual Approaches to "Foot" in Blake's Composite Art

研究代表者

今泉 容子 (IMA-IZUMI, yoko)

兵庫県立大学・応用情報科学研究科・社会応用情報科学研究センタープロジェクト研究員

研究者番号：40151667

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究が対象としたのは、英国ロマン主義期の詩人・画家・彫版画師ウィリアム・ブレイク(William Blake)の「彩飾詩」(Illuminated Poetry)とよばれる複合芸術の全作品であった。研究目的は、彼の作品に頻出する「足」の意味を、18世紀の医学的ディスコースに関連づけながら、またゴシック文学/エロティック文学における「足」の描写と比較しながら、解明することであった。本研究の独創的な成果は、ブレイク作品に描かれた「足」の表象にジェンダー認識が見られること突きとめ、従来のブレイク研究では抜け落ちていた「女のセクシュアルな足」の意味と役割を分析したことであった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が目指した方向は、従来のブレイク研究の方向とは、はっきり異なる。ブレイク作品における「足」の研究は、アードマンやデイモンの古典的研究書によって本格的にはじめられたが、そこにはジェンダー的パースペクティヴは入ってこなかった。切り捨てられていたジェンダー的視点に立つブレイク研究は、まだはじまったばかりであるが、本研究は国内外で実践される「本格的な」ジェンダー論的ブレイク研究として大きな意義をもつであろう。

また、「足」という身近な人体部位の表象研究の成果は、十数年にわたって各地で実施してきた「社会貢献事業」(たとえば青少年育成や生涯学習)を通じて、一般市民へ広く還元できうと考えている。

研究成果の概要(英文)：

This project was designed to examine the meaning and function of "foot" in William Blake's illuminated poems against the backdrop of the medical and sexual discourses which were prominent in 18th-century England. It was successful in clarifying what can be called "sexual foot" or "woman's foot" which had remained unexamined since the dawn of Blake studies.

The role of the "woman's foot" is to stamp on men and put them out of action. The foot turns out to be a powerful tool for women to control men in Blake works. It does not fail to appear in the scenes of the struggle between the sexes. The male foot, on the other hand, is used to help men make deep inroads into the unknown and cultivate themselves so that they may be accepted in the ideal world when the time comes. This kind of gender difference in the image of "foot" makes Blake's art quite unique in the eighteenth century.

研究分野：人文学

キーワード：ブレイク 複合芸術 足 18世紀 医学 ジェンダー 英国 ロマン主義

## 1. 研究開始当初の背景

本研究が対象とするのは、イギリス・ロマン主義期の詩人・画家・彫版画師ウィリアム・ブレイク (William Blake) の「彩飾詩」(Illuminated Poetry) とよばれる複合芸術の全作品であった。研究目的は、彼の作品に頻出する「足」の意味を解明することであった。

ブレイク自らが「彩飾詩」と名づけた一連の複合芸術作品(詩+絵が合体した芸術)において、「足」は熱っぽく、力をこめて描かれている。ブレイクは足にこだわった。多くの詩行に「足」(foot, leg) という語を登場させただけでなく、後期の彩飾詩になると、登場人物の足が、人体のプロポーションを崩してまでも、ひときわ大きく描かれたのである。

しかし、ひとつの問題があった。解明されてきた「足」が、ブレイクの「足」の表象の全体像ではなく、一面だけに限定されていたという問題であった。解明された「足」は、「男の足」と呼びうるものである。ブレイク研究を飛躍的に発展させたディヴィッド・アードマン (David Erdman) の『ブレイク、帝国に反逆する予言者』(Blake, Prophet Against Empire, 1954年)も、難解なブレイク作品の用語を解き明かした S・フォスター・デモン (S. Foster Damon) の『ブレイク辞典、ウィリアム・ブレイクの思想と象徴』(A Blake Dictionary: The Ideas and Symbols of William Blake, 1965年)も、「足」を男の登場人物に結びつけて論じたのだった。

たしかに、ブレイクが理想的な登場人物として描いたロス (Los) は、男に設定されたのであってみれば、「足」を男と結びつけて解釈するのは、とうぜんかもしれない。しかし、ブレイクの彩飾詩が『ヨーロッパ』『アメリカ』から、『ユリズンの書』『アヘニアの書』『ロスの書』をへて、『四ゾア』(未完)や『ミルトン』『ジェルサレム』へと進展するにつれ、「男 vs 女」の葛藤はますます激しくなり、特異な「女の足」が登場するようになったことを、無視することはできない。この「女の足」を視野に入れなければ、ブレイク複合芸術における「足」の表象全体は理解できない。

この認識から、本研究は出発し、従来のブレイク研究から抜け落ちていた「女の足」の意味を考察したうえで、ブレイクの象徴体系における「足」の全体像を明らかにしようとしたのである。

「女の足」は男を誘惑したり男に抵抗したりするセクシュアルな足である。そうした「女の足」は、ブレイク複合芸術においてどのように形成され、どのような変容をたどったかを、ブレイクの彩飾詩の作品群を考察対象として、解明しようとしたのである。

そのさい、ブレイクが生きた 18 世紀後半～19 世紀前半の思想・心理の環境を重視した。とくに、ブレイクの「足」に影響を与えた環境のうち、(1) 医学(とくに解剖学)の「足」のディスコース、(2) ゴシック文学の「足」のディスコース、という 2 つの環境に照らし合わせながら、ブレイクの「足」を解析しようとした。

## 2. 研究の目的

ブレイク作品に登場する多くの登場人物のうち、理想的な人間の状態に到達すべく努力するのはロス (Los) という男であり、とくに力を入れて描かれている。「男」に人間の再生が託されていることを考慮すれば、ブレイク複合芸術における「足」は「男の足」として考察されうるし、じっさいブレイク複合芸術においても、「男の足」は重要な意味を与えられている。しかし、ブレイクの彩飾詩が初期から後期へとうつるにつれて、「男」と「女」の葛藤は激しくなり、「女の意志」(Female Will) と呼ばれる存在が登場するようになり、この「女の意志」が武器として用いるのが、自分たちの「足」、すなわち「女の足」である。この「女の足」を無視しては、ブレイク複合芸術における「足」の全体像は理解できない。

本研究の目的は、ブレイク複合芸術における「女の足」の意味を解明することに大きな比重を置くことになった。すなわち、「女の足」が突き出される方向には何が存在し、「女の足」は何のために用いられるかを分析することが、本研究の主たる目的となったのである。さらに言えば、そうした「女の足」は、ブレイク複合芸術においてどのように形成され、どのような変容をたどったかを、ブレイクの彩飾詩の作品群を考察対象として解明していくことが、本研究の目的だったのである。

### 3. 研究の方法

「女の足」がブレイク複合芸術においてどのように形成され、どのような変容をたどったかをブレイクの彩飾詩作品群のなかに検出するさい、ブレイクが生きた18世紀後半～19世紀前半の思想・心理の環境を重視する方法をとった。とくに、ブレイクの「足」に影響を与えた環境のうち、(1)解剖学の「足」のディスコース、(2)ゴシック文学の「足」のディスコース、という二つの環境に照らし合わせながら、ブレイクの「足」を解析していった。

ブレイクの彩飾詩の全作品に見られる「女の足」がどれほど独創的なものであったかを明らかにするうえで、18世紀の医学（とくに解剖学）とジェンダー観（ゴシック文学に込められていた18世紀のジェンダー観）の視点を導入することは有意義であった。

まず、18世紀医学関連の一次資料を入手し、ブレイクと医学の結びつきを可能な範囲で考察する方法をとった。ブレイクのSpurzheim著 *Observations on Insanity* への欄外書き込みや、出版者ジョセフ・ジョンソン（Joseph Johnson）経由で読んでいたジョン・ブラウン著『医学入門』（*Elementa Medicae*）の英語訳本（1788年）など、比較的容易に本研究に取り入れることができるものを利用した。

また、同様に、ブレイクと同時代の多くのラディカルな書物のうち、ジョンソン経由でブレイクが接していたと推察できるゴシック文学/エロティック文学も本研究に取り入れて、「足」の描写に関してブレイクのそれと比較する方法をとった。

ブレイクが生きた時代は、まさに「解剖学」が花開いた時代であり、またゴシック文学/エロティック文学がさかんに出版されていた時代であったため、そうした環境にブレイク複合芸術を置いて、ブレイクの特異性をきわだたせようとする方法をとったのである。

本研究において、とくに力点を置いて明示したことは、初期作品から後期作品へ移るにつれて、ブレイクの「足」に込められた意味が「変化していく」ということであったが、「男の足」から「女の足」へと徐々に重点が移行したことが、とくにジェンダーのパースペクティブの導入によって明らかにできた。

### 4. 研究成果

本研究の大きな成果は、ブレイク複合芸術において重要な役割を担う「足」を「男の足」と「女の足」に分けたうえで、従来考察されなかった「女の足」に重点をおきながら解明したことであった。

ブレイク複合芸術においては、初期から後期にいたるにつれ、男女の葛藤がしだいにクローズアップされていく。そして、ついには「女の意志」(Female Will)とよばれる女たちが多数出現して、男を支配し、世界を支配する。その過程で、男を魅惑し支配するために、また男を拒絶し対抗するために、「女の足」が活躍することになるのである。

「男の足」のほうは、女とは無関係なシーンに出現する。たとえば、『ユリズンの書』19葉では、再生をめざして暗黒へ分け入る男の右足は、通常のプロポーションを超えて気持ち悪いほど長く伸び、目立った存在になっている。『ミルトン』になると、足の重要度は頂点に達する。そこでは流星の形をとって下降してくる他人が、自分の「足」に入ることを赦す男が16葉、29葉、33葉に、くり返し描かれる。自分の体に入った他人が、体内で自分の一部（エマネーション）と交じり合うことを赦すには、他人を排斥したがる「自我」を抑えなければならない。だから男たちは、Self-hood（自我）のSelfとhoodを「足」で分断する努力をする。しかし、なかなか墮落から抜け出すことができない男もいる。『ジェルサレム』でアルビオンは、「足を覆って」しまい、他人が自分の体に入ることを拒絶する。その「足には青ざめた死」が浮かび上がってくるのだ（『ジェルサレム』33葉 - 34葉）。

このように、「男の足」は彼自身のために使われる。しかし、「女の足」は、男がいてこそ出現することを、本研究は明らかにした。「女の足」は男に向かって開かれ、彼を誘惑し支配するセクシュアルな足である。「女の足」の先には、男がいる。

たとえば、『アメリカ』では女ヴェイラの足は、男アルピオンに向かって大きく開かれ、彼女は男に自分の性器を見せつけている。その股間からは誘惑の蛇まで出てくる。男は彼女を崇めているのである。

ブレイクの後期の作品になると、『ジェルサレム』に見られるように、「女の意志」(Female Will)と呼ばれる女たちが、「これは女の世界だ」(“This is Womans World”)と叫んで、男たちを支配するようになる。その支配の道具として「女の足」が使われるのである。『ジェルサレム』16葉で、「女の意志」のひとりが自分の足の間に男の頭を挟んで、彼の自由を奪う。『ジェルサレム』69葉では、二人の女が性器も露わに足を開きながら、囚われの身になった男のまわりを踊っている。

こうした大胆で、独特で、男を魅惑・支配しようとする「女の足」は、ブレイクの表象体系の重要な柱のひとつになっていることを、本研究は解明した。

本研究の出発点には、従来の研究が「男の足」に集中し、「女の足」が十分に研究対象にされてこなかったことへの反省があった。そのブレイク表象研究の未開拓の領域に切り入って、ブレイクの「足」の全貌を明らかにしようとした点に、本研究の独創性がみとめられよう。

ブレイク複合芸術作品においては、初期から後期にいたるにつれ、男女の葛藤がしだいにクローズアップされていったことも、本研究によって明らかにできた。とくに後期の作品において「女の足」が重要な役割を果たすようになり、その「足」を自在に繰るのが「女の意志」(Female Will)とよばれる女たちであることが明らかにされたため、それらの「女の意志」と呼ばれる存在を解明したものとしても、本研究を位置づけることができる。

「女の意志」とよばれる女の登場人物たちは、後期の作品になるにつれて多数出現するようになり、男を支配し、世界を支配するようになる。そうした「女の意志」そのものの研究も、今後、発展させることができよう。

最後に、本研究の成果として、二つの領域において別々の研究がなされがちなブレイク研究を、ひとつの統合された研究として実践したこともあげられよう。具体的にいえば、(1)「足」が記された「詩文」の研究をおこなう文学研究と、(2)「足」が描かれた「絵画」の研究をおこなう美術研究を、ひとつの研究のなかで統合したことである。ブレイク複合芸術の初期作品から後期作品にいたるまで、詩へのアプローチと絵へのアプローチをいっしょに行うことによって、ブレイク複合芸術を「詩+絵」の「総体」として解釈する立場を貫いたものが、本研究であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Yoko Ima-Izumi
2. 発表標題 The Border between Humans and AIs
3. 学会等名 Hawaii International Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Ima-Izumi
2. 発表標題 The Visually Prominent Body
3. 学会等名 Hawaii International Conference on Arts and Humanities (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoko Ima-Izumi
2. 発表標題 Representations of Happiness of the Troubled People
3. 学会等名 Hawaii International Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考